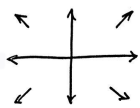


	最初の人	植物・食物	園の中央の祝福	創造の7日間
分析 くらべて分ける Cluster Analysis	アダム 名付ける 王の働き	種を生じる草 穀物 (パン) いちじく (種が多い)	善と悪を知る木 さばき (区別) の知恵	6日間 分けて、名づけて、良しとする
連想 くらべてつなげる Fruitful Analogy	エバ 生きる 祭司の働き	実を結ぶ樹 ぶどう、オリーブ (ワインと油) なつめやし (実が多い)	いのちの木 ひとつになること	7日目 休んで、聖であると宣言する



Cluster Analysis like Adam

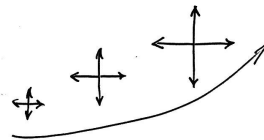
AABB . ABAB . ABBA (Quatrain)



ex)
· Psalms' Structure
· Book's Structure



Fruitful Analogy like Eve



ex)
· Feasts' Pattern (1.3.40.7)
· Covenantal Progress (Abraham, Moses, David ...)
· The Sermon of the Mount and James

くらべて分けること (分析)

分析とは、箇所を、ただしく区別して、良い名を付けて喜ぶことである。夫であり王である知恵のあるアダムの働きに似ている。

対象の書物や箇所に出 てくる同じことば、言い方を洗い出す。それらの語句の関係を確かめながら、正しく段落 (クラーター、房) に分けて、題を付ける。

基本は4分割。分けられたまとまり (房) どうしをくらべて、まとまりの特徴を、対語で名付ける。(天と地、光とやみ、神と人、いのちと死、善と悪、内と外など) 前後左右とくравるるので、AABB、ABAB、ABBAの3方向から検討する。

6分割の場合も多いが、1+2+2+1、1+2+1+2という4分割のバリエーションである。6分割の場合は、2階層で分析する。

詩篇は、1篇ずつ房に分けられているが、さらに、詩集として複数の詩篇が、さらに房を構成している。各巻もさらにその上の並行構造をもつ。

くらべてつなげること (連想)

連想とは、みことばの種が、どのように実を結び栄光化されていくのか、その調和を楽しむことである。妻であり、生けるものの母あるエバの栄光に似ている。

他の書物や箇所とくらべて、似ている箇所を連想し、話しの種がどう実を結ぶのか、どう生かされていくのかを探っていく。繰り返しのことばや文をてがかりにつなげていく。

登場人物やセリフを中心に筋を把握する。とはいえ、聖書以外の物語や小説と同じように、大道具、小道具、場所、詩歌、効果音も出来事の連携を見つけ出すのに役立つ。

アブラハムの契約やダビデの契約などの約束が成就していく過程や、イスラエルの祭りに表されている勝利の歴史のパターンは、大きなつながりを形作る。

新約時代の書物も、旧約時代の書物の成就としてだけではなく、福音書が種となり、使徒行伝、手紙、黙示録へとさらに実を結んでいく。

聖書は、幾重にも重なった多重構造をもつ。はじめの創造の種が実を結び、新しい創造の実が熟していく。そして、また、その実が種となる。何度も何度も新たな息が吹きこまれ、栄光から栄光へと進む。